

(2) 竹島小学校

学 校 長 今津 一志
校内研究代表者 岡崎 美和

1 研究主題

主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり

2 主題設定の理由

本校は、四万十川の下流に位置し、豊かな自然に恵まれるとともに、学校教育にかかわっても地域のあたたかい支援を受ける等、恵まれた環境にある。子ども達は仲が良く、素直で明るい。全校児童は61名で、7学級編制（特別支援学級1学級を含む）の小規模校である。

昨年度より、研究主題を『主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり』とし、算数科を研究教科とし、授業研究を中心に研究を進めてきた。問題解決の過程を重視した学習のスタイルのアウトラインを確立し、目指すべき授業の方向性についての共通理解が図られてきたことや、授業スタンダードにもとづく問題解決型の授業実践の拡大、各種学力調査結果における児童の学力状況の向上等の成果の一端も現れつつある。

また、基礎・基本の徹底を図る取組として、漢字・計算・音読・ノート指導等について各学級の実態や取組状況について実践交流を行い、学校全体への取組へとつなげてきた。さらに、自ら考え行動し表現する力を高めるため、授業のみならず、発表朝会や委員会活動、行事等においても、子ども達が主体的に活動できる場を大切にしてきた。

全国学力・学習状況調査をはじめ各種学力調査結果からも、基礎的・基本的な内容については、確実にその定着が図られてきていることがうかがえる。言語活動の充実を図りつつ、授業改善に取り組んできた成果であると考えている。一方で、思考力・判断力・表現力にかかわる、習得した知識・技能等を様々な場面に活用する力や問題解決に向かって構想を立て課題解決する力、自身の学習を振り返り、評価・改善する力については、いっそうの向上が求められる。

こうした課題をふまえ、今年度は教育目標『たくましく未来を切り拓く児童の育成』のもと、確かな学力の育成に向け、研究主題を『主体的に問題解決に取り組み、対話を通して、深い学びへと向かう授業づくり』とし、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点から、実践的研究を進めていくこととした。まず、児童の学習に向かう意欲が、他者との、自己との、教材（課題）との対話を有効なものとし、また、対話を通して学習意欲が高まり、さらに、見方・考え方を働かせながら、質の高い深い学びへと向かっていくという授業イメージの共有を図っていく。さらに、そうした学習の過程を重視した授業改善を通して、児童に求められる資質・能力の育成を図っていくこととした。

問題解決の過程の質的向上に向け、授業研究を継続し、研究テーマにアプローチしていく。

全教員が、目指す授業についての共有を図り、児童の学習意欲を高め、学びの価値及び児童が自身の向上を実感することのできる授業づくりを目指し研究を進めることで、児童一人一人の未来を切り拓いていく力につなげていきたい。

3 研究の進め方

(1) 研究仮説

〈仮説1〉

- ・児童に身に付ける資質・能力を明確にし、児童の学習意欲を喚起する問題場面を設定し、問題意識をもって課題解決に向かうことができれば、主体的に学習に取り組む児童が育つであろう。

〈仮説2〉

- ・問題解決における見方・考え方を明確にし、思考し、表現する場と、児童の思考について相互交流する場を設定するとともに、このような学習活動をスパイラルに効果的に取り入れることにより、深い学びへと向かい、学習したことの価値と自身の向上を児童が実感することができるであろう。

(2) 研究組織

- 研修部会
 - 学習部会 (2年、4年(研究主任)、5年、校長)
 - 生活部会 (1年(教頭)、3年、あおぞら、6年、養護)
- 学年ブロック
 - 低学年部会 (1年(教頭)、2年、養護)
 - 中学年部会 (3年、あおぞら、4年)
 - 高学年部会 (5年、6年、校長)

(3) 授業研究

- ・算数科の授業研究(一人年間1回)
- ・その他:学級活動における防災学習(3回)、外国語(1回)、特別な教科道徳(1回)

4 今年度の取組

(1) 基礎学力をつける取組

- ・学習規律の徹底(聞き方名人の表彰)
- ・朝学習・帯タイムの充実(新出漢字の指導の統一、全校チャレンジタイムの実施)
- ・竹島漢字検定の実施(月末木曜日の放課後)
- ・実践交流(漢字指導・音読指導(系統化した読書カード)、計算指導、ノート指導)
- ・自己表現できる場の設定(表現する力・考えながら聞く力)
(授業展開・朝会活動・発表朝会・なかよしコンサート・行事後の感想等)
- ・家庭学習の充実(家庭学習の手引き・学習ノートの相互交流及び評価)
- ・読書活動の充実(読書タイム・学年課題図書・各学年の読書目標)

(2) 授業改善

- ・研究テーマ・研究仮説に基づく日々の授業実践
- ・主体的・対話的で深い学びについて授業像・児童像の共有を図る、模擬授業の実施



- ・教材研究・授業研究の充実(算数科・特別な教科道徳・外国語 講師招聘)

教科・領域	日	学年	単元・教材名
算数科	5月14日	4年	わり算の仕方を考えよう
	6月11日	3年	わり算を考えよう
	6月27日	1年	のこりはいくつ ちがいはいくつ
	10月30日	2年	新しい計算を考えよう
	11月20日	5年	速さの表し方を考えよう
	11月27日	6年	順序よく生理して調べよう
学級活動(防災)	5月29日	6年	南海トラフ地震に備えよう
	6月19日	2年	地震が来たらどうするの
	10月16日	3年	非常持ち出し袋をつくろう
	1月23日	1・4・5年	防災授業発表会
特別な教科 道徳	5月22日	2年	ふわふわことば ちくちくことば
外国語	7月10日	5年	When is your birthday?

- ・授業評価表の活用
- ・外国語活動(英語指導教員・サポーター・ALTの活用・コミュニケーション能力の育成)

(3) 防災教育の推進

- ・防災についての職員研修
- ・講師として、防災学習アドバイザー・コラボレーター 諏訪清二先生を継続して招聘しての授業研究及び講話・グループワーク
- ・防災参観日の充実
 - 授業公開及び防災植物教室

- 総合防災訓練
- (4) 探究的活動に基づく総合的な学習の時間の実践
 - ・ふるさとを語り、ふるさとを誇れる児童の育成
- (5) 道徳教育の推進
 - ・道徳教育の全体計画及び特別の教科道徳の指導計画の整備並びに計画に基づく確実な実践
 - ・道徳参観日の充実
- (6) 人権教育の推進
 - ・体験学習の重視
 - ・講師招聘（心の教育参観日での講演会）
 - ・「障がい」者理解教育
 - ・学級集団づくり、学校集団づくり
 - ・特別支援教育の推進、人権参観日

5 今年度の成果（○）と課題（●）

- 計画どおり全学級において算数と学級活動（防災学習）、特別な教科道徳、外国語の授業研究を実施することができた。協議の視点に基づきグループに分かれて協議を行い、その後全体協議を行った。協議の中で活発な意見交換が行われ、授業スタイルに沿って授業の振り返りを行うことができた。
- 漢字指導・音読指導・計算指導・ノート指導の実践交流では、児童の発達段階に応じて、基礎・基本となる力をどのように定着させていくか共通理解を図り、帯タイム等の活動内容について確認することができた。
- 防災学習については、具体的に地震が発生したときの状況を考えながら竹島の地域性を生かした授業を工夫して考えることができた。
- 防災学習について学級活動で学習したことを総合的な学習の時間につなげ、地域をフィールドとして学習を進めることができた。
- 算数科では、どの研究授業でも見方・考え方について学習指導要領で確認しながら協議を進めることができ、見方・考え方について深め、日々の実践に取り組むことができた。
- 授業の導入では児童の学習意欲を喚起するような日常の生活場面と関連付けた問題場面を設定したり、発問を工夫したりすることなどが話し合われた。まとめや振り返りを行う中で、児童の深い学びを見取ることができているのか研究仮説について年間を通して話し合うことができた。
- 毎日の読書タイムは短い時間ではあるが、全児童が集中して読むことができている。
- 防災学習の内容を発達段階に考慮して系統的に進め、他教科との関連をより図っていく必要がある。また、保護者・地域への情報発信に努め、より連携した取組としていく必要がある。
- 研究テーマにせまる深い学びへと向かうために、授業において適宜書く活動を取り入れ、自身の学びを振り返り、よりよい問題解決へとつなげられるよう、柔軟に資質・能力を育む授業展開を工夫していく必要がある。

《来年度に向けて》

- ☆研究授業を行った算数科以外の教科でも問題解決型の授業展開に向けて、研究を進めていく。また、授業改善の研究を積み重ねが図られるよう、研究協議後の改善方策の確実な実施とその検証により、授業改善のPDCAサイクルを展開していく。
- ☆目指すべき主体的・対話的で深い学びが具現化された授業についていっそう明確にし、授業イメージの共有を図っていくために、研究仮説にもとづく視点を絞った研究協議を継続していく。
- ☆育む力を明確にし、興味・関心を高める授業改善を継続するとともに、学習したことの価値づけ・評価を行い、児童の成長実感を高め、確かな学力保障につなげていく。
- ☆防災教育については、教育課程における総合的な学習の時間との関連を工夫・改善し、地域をフィールドに人材を積極的に活用し、地域を巻き込んだ教育活動で防災・減災力を高めていく。また、保護者・地域への情報提供に努め、家庭生活とのかかわりのある内容を学習に取り入れていく。